

鴻臚館 北館東門 工事途中の様子を特別公開します

福岡市では、国史跡鴻臚館跡の歴史的価値を次世代に継承するため、令和7年度より整備活用事業に着手し、北館東門や地形の復元を進めています。

現在は、北館東門の復元工事が柱の設置や屋根の骨組みの組み上げ（立柱・上棟）まで進み、当時の姿が徐々に浮かび上がってきました。

このたび、通常は見ることのできない工事途中の様子を、報道機関の皆さまに特別公開いたします。鴻臚館の復元が進む現場を間近で取材いただける機会となっておりますので、ぜひご取材くださいますようお願いいたします。

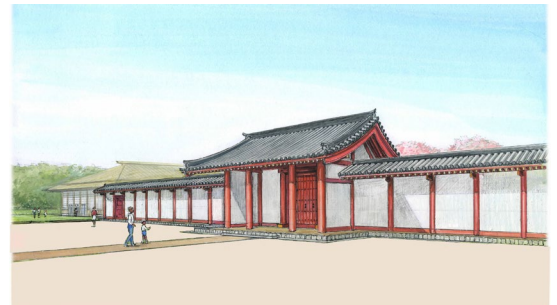
概要

日 時：令和8年4月28日（火）
10時00分～10時30分（予定）
（受付 9時30分～）

※雨天の場合は、事業概要のみ説明いたします。

※工事中の安全確保のため、上記日時以外での取材には対応できませんので、あらかじめご了承ください。

集合場所：鴻臚館跡工事範囲入口前（福岡市中央区域内）



▲北館東門 完成イメージ

内 容：10：00～ 10：30 事業概要の説明

【場所地図】

当日の連絡先
史跡整備活用課
092-711-4470



今年10月の鴻臚館東門の復元公開に向け、テレビCMを放映します。CM動画はこちらからご覧いただけます
→ <https://youtu.be/6yrLG7Gx3yg>



《 参考資料 》

鴻臚館について

【鴻臚館の歴史ストーリー】

古代の迎賓館と称される鴻臚館は、飛鳥時代後半から平安時代後半まで、現在の舞鶴公園内に所在した外交施設です。「遠の朝廷（とおのみかど）」とうたわれた大宰府の整備に続いて、外交・交易施設として設置されました。

「鴻臚館」とは平安時代の客館の名称で、設置当初は「筑紫館（つくしのむろつみ）」と呼ばれていましたが、のちに施設名称が唐風に改められ、鴻臚館となりました。日本には京都と大阪、福岡に鴻臚館が設置されましたが、遺構として確認されているのは唯一福岡だけです。

鴻臚館は新しい文化や技術を日本で最初に受け入れる窓口であり、国家的な交易や国際交流が行われた場所で、当時の朝廷が設置したいわば「経済交流特区」でもありました。鴻臚館を擁する福岡の地には、それらを柔軟に受け入れる環境や気質が醸成され、脈々と受け継がれてきました。

現在の福岡は、当時の鴻臚館が果たした役割を受け継ぎ、「国家戦略特区」として都市の成長を加速させ、発展し続けています。

【北館東門（ほっかんひがしもん）の復元】

福岡の鴻臚館は、東西に延びる谷を挟んで南北の施設が併設されているのが特徴です。令和7年度より着手した鴻臚館整備・活用事業では、鴻臚館のシンボルとして多くの使節団や商人たちを迎え入れた北館東門と堀の一部を復元し、当時の「鴻臚北館」の姿を整備します。

北館東門は八脚門（はっきやくもん）と呼ばれる型式で建てられ、日本に到着した人々が通る最初の門であり、日本から旅立つ遣唐使らを送り出す場所でもありました。

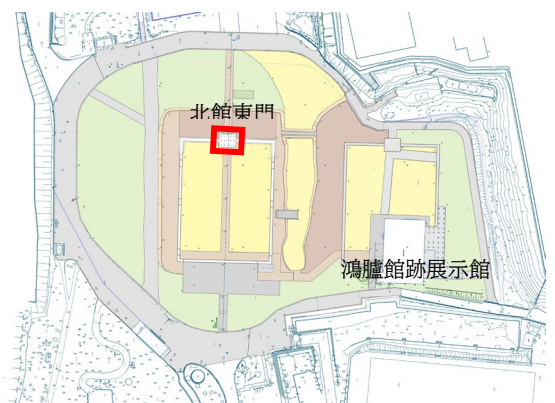
【整備・活用事業のスケジュール】

現在進めている鴻臚館整備・活用事業の今後のスケジュールとして、鴻臚北館東門を令和8年10月に公開し、鴻臚館跡展示館を令和9年3月にリニューアルオープンする予定です。

今後のスケジュールの詳細は、工事の進捗に合わせ、あらためてお知らせいたします。



▲ 復元整備完成イメージ



▲ 復元整備範囲全体図

経済観光文化局 文化財活用部 史跡整備活用課
担当：大塚・本田
TEL：092-711-4470（内線4470）
E-Mail：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp